

「ママのスマホになりたい！」

～「すこし・ふべん」なくらいが ちょうどいい～

メールが入っていないだろう
か、SNS(ラインやフェイスブ
ックなど)には??と、スマホ
が気になって仕方が無い。
速く返事を返さないと、友達
との関係がぎくしゃくしてしま
うかもと、心配でならない。
食事の時、子どもや家族が話
しかけても、スマホ画面を見続
けている。
スマホゲームにはまってしま
って、時間が経つのを忘れてし
まい、仕事に支障が生じてい
るといった話が、最近よく聞か
れます。このように、生活がス
マホに支配されているというこ
とはないでしょうか。皆さんは、
いかがでしょうか。

さて、8月25日に町民会館で
県保育研究協議会西濃ブロック
主催講演会が開かれました。今
井昌彦先生(浜松学院大学短期
大学部 教授)に、「これからの
子育てに大切なこと」笑顔・
愛着・メディア・コミュニケーション
シオンと題してお話ししてい
ただきました。そのお話の中で
たいへんショッキングだったの
は、『ママのスマホになりたい』
(「バズマガ」webマガジンよ
り)という作文でした。

(概要)
シンガポールのサイトに
投稿された、小学校の先生
をしている女性の体験談で
す。その女性は、前日に「自
分の願い」という題名の作
文を宿題にだしました。最
後の一つを読んでいたら、
突然涙が溢れたのです。
その内容は……

ぼくの願いはスマートフ
オンになることです。なぜ
なら、ぼくのママとパパは
スマートフォンがとても大
好きだから。

ママとパパはスマートフ
オンばかりを気にして、と
きどきぼくのことを忘れて
しまいます。

ぼくのママが仕事から疲
れて帰って来たとき、パパ
はぼくではなく、スマート
フォンと時間を過ごします。
ママとパパが大事な仕事を
していてスマートフォンが
鳴り出したら、一回鳴った
だけでもすぐに電話に出ま
す。ぼくが泣いているとき
でさえ…そんな風にはして

くれないのに。
ママとパパはぼくとは
なく、スマートフォンでゲ
ームをして遊びます。スマ
ートフォンで誰かと話して
いるとき、ぼくが何か伝え
たいことがあっても、ぼく
の話を聞いてくれません。
だから、ぼくの願いはス
マートフォンになること
です。

だれが書いた作文かを夫
が尋ねると、「私たちの息
子よ」と、夫が一番聞きた
くない答えが返ってきました。
た。

今、社会問題化している、「ス
マホ育児」についてです。口
出して言わない子、言えない子
がほとんどですが、子ども達は
スマホ育児をこのように受け止
めています。私たちも知らず知
らずのうちに、同じようなこと
をしていないでしょうか。

町では、昨年度から全小中学
校で「ノーゲームデー」や「家族
で過ごす時間」という日を設け
て、取り組んでいます。『テレ

でも見ない、スマホにも触らな
いということ、最初はどの過
ごそうか迷ったけれど、家族み
んなでトランプをしたり、お菓
子作りをしたりして、普段見落
としていた表情を、見つけるこ
とができました。たまにはこう
いう時間を作るといいなと、思
いました。』

これは、保護者の感想です。
文筆家の萩原魚雷さんは、
『日々の生活は「すこし・ふべん」
なくらいがちょうどいい。』と言
います。便利過ぎない生活には
それなりの良さがあり、自分の
感性を磨くにはもってこいな
だそうです。

『私は、ぼーっとしていた。
数学好きになるには、考える時
間が必要です。今の子どもは、
スマートフォンやゲーム機をず
っと触っていて、頭で考える時
間はあるのかと心配になりま
す。』(京都大学 森重文 特任
教授 数学フィロソフ賞受賞)

自分を取り戻すために、子ど
もを守るために、まず、大人か
ら静かな時間、ゆっくりと考え
る時間、ぼーっとする時間が必
要なのではないでしょうか。